

令和2年第1回糸魚川市議会定例会会議録 第4号

令和2年3月5日(木曜日)

議事日程第4号

令和2年3月5日(木曜日)

〈午前10時00分 開議〉

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

本日の会議に付した事件

日程第1 会議録署名議員の指名

日程第2 一般質問

〈応招議員〉 19名

〈出席議員〉 19名

1番	平澤 惣一郎 君	2番	東野 恭行 君
3番	山本 剛 君	4番	吉川 慶一 君
5番	中村 実 君	6番	滝川 正義 君
7番	佐藤 孝 君	8番	新保 峰孝 君
9番	田原 実 君	10番	保坂 悟 君
11番	笠原 幸江 君	12番	斉木 勇 君
13番	高澤 公 君	15番	田中立 一 君
16番	古川 昇 君	17番	渡辺 重雄 君
18番	松尾 徹郎 君	19番	五十嵐 健一郎 君
20番	吉岡 静夫 君		

〈欠席議員〉 0名

〈説明のため出席した者の職氏名〉

市 長 米田 徹 君 副 市 長 藤田 年明 君

総務部長	山本 将世 君	市民部長	五十嵐 久英 君
産業部長	見辺 太 君	総務課長	渡辺 成剛 君
企画定住課長	渡辺 孝志 君	財政課長補佐	嵐口 守 君
能生事務所長	土田 昭一 君	青海事務所長	穂苅 真 君
市民課長	小林 正広 君	環境生活課長	高野 一夫 君
福祉事務所長	川合 三喜八 君	健康増進課長	池田 隆 君
商工観光課長	大嶋 利幸 君	農林水産課長	猪又 悦朗 君
建設課長	五十嵐 博文 君	復興推進課長	斉藤 喜代志 君
会計課長 会計管理者兼務	山口 和美 君	ガス水道局長	樋口 昭人 君
消防長	丸山 幸三 君	教育長	井川 賢一 君
教育次長	磯野 茂 君	教育委員会こども課長	磯野 豊 君
教育委員会こども教育課長	泉 豊 君	教育委員会生涯学習課長 中央公民館長兼務 市民図書館長兼務	小島 治夫 君
教育委員会文化振興課長 市民会館長兼務	伊藤 章一郎 君	監査委員事務局長	渡辺 一彦 君

〈事務局出席職員〉

局 長	松木 靖 君	次 長	山川 直樹 君
係 長	上野 一樹 君		

〈午前10時00分 開議〉

○議長（中村 実君）

おはようございます。

これより本日の会議を開きます。

欠席通告議員は、ありません。

定足数に達しておりますので、直ちに会議を開きます。

日程第1．会議録署名議員の指名

○議長（中村 実君）

日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員には、2番、東野恭行議員、11番、笠原幸江議員を指名いたします。

日程第2．一般質問

○議長（中村 実君）

日程第2、一般質問を行います。

3日に引き続き、通告順に発言を許します。

松尾徹郎議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。〔18番 松尾徹郎君登壇〕

○18番（松尾徹郎君）

おはようございます。

私は、教育委員会における現状と課題について、一般質問を行います。

先日（2月7日）、ヒスイ王国館において、糸魚川市教育委員会主催による、第20回教育懇談会が開催されました。「産・学・官＋高校生で考える糸魚川の明日」と題し、「キャリア教育の実践」と「高校を核とした地域人材の取組」として、市内3校の高校生による体験発表会がありましたが、改めて時代の変遷と教育の変革に気づかされる懇談会であったと思います。

私の高校時代は、詰め込み教育が中心で、ちょうどオイルショックを迎えた頃であり、日本列島改造論に沸く経済成長の時代でした。しかし現在では、経済においては低成長時代に入り、また、産業面ではIT（情報技術）、AI（人工知能）といったハイテク産業をはじめ、それらを駆使した技術革新などにより、新たな産業が生まれるなど、創造性が求められる時代だと思えます。

このような時代を迎え、ますます国際競争が激化する中、国力を維持し発展するために、今まで以上に学力向上が求められ、授業内容も大きく変わり、子供たちの可能性や特性を伸ばすために、教育環境の整備とともに、新しい時代にふさわしい教育改革が進められようとしています。

そのため、義務教育である小・中学校においても、小学校高学年において実施される英語科目、また、プログラミング教育など教育課程も大きく変わろうとしています。

子供を取り巻く急激な環境変化の中、危惧される点は、今まで以上の知識偏重の学力観や受験競争の過熱化、あるいは、いじめや不登校問題の深刻化、青少年の非行問題、家庭内における新たな社会問題など、憂慮すべき事態が生じているだけに、教育現場における教職員の負担も大きいと思えます。そこで伺います。

(1) 家庭内教育の重要性はもちろんですが、幼児教育をはじめ、市内の各小・中学校における教育現場では、どのような課題や問題に直面しているか、現状について伺います。

(2) 最近、市内の各小・中学校におけるスポーツでの活躍をよく耳にしますが、少子化による児童・生徒数の減少によりスポーツクラブ数の減少、それにより、やりたいスポーツができず、限られたスポーツの中からクラブを選ばざるを得ない子供たちの不満、また、一部のスポーツを除き、クラブ指導における有能な指導者を求めたいとの意見をよく聞きます。さらに教師の負担軽減なども指摘されていますが、この点について、どのように考えているか伺います。

なお、そのほか、教育委員会全体を通して問題や課題があると思いますが、この機会に伺いたいと思います。

以上、よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

井川教育長。〔教育長 井川賢一君登壇〕

○教育長（井川賢一君）

おはようございます。

松尾議員のご質問にお答えいたします。

1点目につきましては、学力向上、豊かな心の育成、健やかな体の育成にとって不可欠な子供の心と体の健康が課題となっております。具体的には、集団活動への不適應や生活リズムの乱れによる体調不良などが挙げられます。

2点目につきましては、現在、市内4中学校の運動部のうち、6つの部には県スポーツエキスパート活用事業による外部指導者が派遣され、指導に当たっております。今後の生徒数の推移やスポーツ種目に対する生徒の希望、指導員の確保の状況等に応じて、学校と社会体育団体、教育委員会が連携して、スポーツの機会確保に努めてまいります。

なお、近年、特別支援学級及び支援を必要とする通常学級の在籍者が増えており、就学前の段階から特別支援に関する相談や対応が課題となっております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますのでよろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

それでは、再質問の前に1点、初めに、新型コロナウイルスの関係で一斉休校となりました。教育現場は非常に大変だったと思いますが、これからまた春休みが始まるということで非常に長期間の休みになるわけですが、学校側としてこの長期間の休みの中、どのような形で生徒にいろんな指導をするのか、お聞きしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

おはようございます。

既に教育委員会のほうからは、各学校に通知を出しまして、長期にわたる春休みに突入する、まあ休みについては、子供の安全の確保、あるいは家庭での過ごし方、このようなことについて指導しておりますし、また、場合によってはお便りとか家庭訪問を通して、子供たちの学習等についても進めるように指導しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

ご存じのとおり休校中は、放課後児童クラブを全小学校に開設をいたしまして、日中、子供さんを見られないご家庭については、そちらのほうでお預かりをしているという現状であります。今現在、3日から運営を開始しておりますが、お申込みが、既存のクラブのお申込みが520弱、プラス今回、開設によってのお申込みが新規で約100あります。620人程度のお申込みで、通常、実際にご利用なさるお子さんは、約250人程度ですので、通常の開設している放課後児童クラブとは変わらない人数のご利用状況でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

長期間ですので、安全の確保をまず第一に、そしてまた、様々な問題が起きないようによろしく指導のほうお願いしたいと思います。

それでは、再質問いたします。

まず、幼児教育なんですが、聞くところによりますと、最近、保育園でもゲームの話で非常に盛り上がると。将来はユーチューバーになりたいという園児もいるぐらいだということを知っていますが、保育園がこのような状況になることをこども課として把握してるかどうか、まず1点伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

メディアとの関わりが低年齢化してきていて、それが保育園にも及んでいるという状況は、今、親子保健計画の中間評価を行っております、そのアンケートを取っております。まだ公表は、分析しておりませんので、公表しておりませんが、そのアンケートの中でも、やはり保育園の低年齢化というのが、顕著に表れています。こども課の保健師を中心に、保護者に対してメディアは決して悪ではないけれども、やはり節度を持った関わりというのが必要だということを保護者にアナウンスしているというような現状であります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

こういう時代ですので、おっしゃるように確かにメディアに慣れるということは、大事なことだと思うんですけども、しかし、これ教育委員会の発表での、先月の定例会だったですかね、家庭で

のゲームに費やす時間が4時間というふうになってる。これが20.7%という数字になってるんですけども、野放しにしているようなことがないかどうか、親が。そういったことが少し危惧されるんですけども、その辺どのように捉えていますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

先ほど私申しましたアンケートの中でも、保護者に対してもアンケートを行っております。やはり保護者がメディアに関わる、家庭でメディアに関わる時間というのは、当然、子供より多くなっていて、そこがやはり子供の前で構ったり、そういった現状が、つぶさに見てとれるアンケート結果になっています。そういったところも含めて、今後やはり保護者のメディアとの関わり方というのも含めて、やはり啓発をしていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

保育園、幼稚園側では、いろいろな問題を抱える子供でも、幼児の段階から家庭内教育をしっかりとやれば、問題となるケースが少ないだろうというふうに捉えているんですけども、教育委員会として保護者への注意喚起を徹底し、しっかりとした対策を講ずる必要があるというふうに思います。実際にやってるんだろうと思いますけども、現状について伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

こども課として、今、妊娠届の受理から対応させていただいているところですが、妊娠届の受理の際に、うちの保健師がしっかり面談をして、メディアとの関わり方をしっかり保護者に落とし込んでいくように努力はしております。

ただ、そういった条件を、これだけ世間の中にメディアがあふれているという現状の中で非常に難しい面もありますが、機会を捉えて保健師が、妊娠届または保育園、あるいは学校へ入って、保護者と相対する中でメディアとの関わりを、地道ですけれどもやっていくというところだというふうに思っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

小中学校におきましては、中学校ごとのメディアのルールについて、生徒主体でまた考えていたりするようなことを通しまして、また保護者へも啓発していくということがございますし、それから、小学校では3つのルールを定めていく中で、授業を進めていく。そのようなことから、保護

者との連携も図ったり、保護者への啓発も図っていききたいというふうに、昨年度から図っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

先日の新聞だったと思うんですけども、香川県議会で、県議会のほうで条例でもって1時間に定めるというようなびっくりするような条例を制定したんですけども、メディアにスマホゲームか。そういうようなことがある時代なもんですから、非常に危惧する点なんですけども、次に移ります。

先日、市内にある保育園の事業で、園児の自然体験の記事が、ある新聞に載っておりました。幼児期に自然体験をさせることにより、ゲームやスマホの遊びから離れ、郷土愛や生きる力を養う意味で非常によい事業だというふうに思いますけれども、この事業は、市補助金のゆめいっぱい体験保育事業を活用しての事業だと思えますけれども、非常にいい事業なだけに、ほかの保育園でも活用できるように予算増額を考えてもよいとは思いますが、その辺いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

議員おっしゃるとおり、この間、新聞報道されました保育園は雪山で遊んで、やはり保育園の話をお聞きすると雪山で遊ぶ前と子供の様子というのは、非常に変わったといいますか成長した面がうかがえるというお話を聞いております。自然と戯れるといいますか、自然の中で遊ぶといったところは、非常に子供たちの成長にとって、やはり子供というのは、適度な不便と困難がなければ成長しないと思っております。自然の中には、それが、その要素がいっぱいあって、それに関わるというのは非常に大事なことかと思っております。今、ゆめいっぱい保育事業を、補助事業をやっておりますが、とはいえ、全保育園が補助事業をやってくれるわけではないという状況ですので、それが市内に、全園に広がって、当然、公立も自然の体験をしっかりとやっておりますので、そういったところを少しでも、子供たちの興味を自然に向けるように対応していきたいなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

非常にいい事業なだけに、今後ともよろしくお願ひしたいと思います。

それで、最近の傾向として、就学前の園児が入学しても、教育支援を必要とする児童が増えるように聞かれますけれども、年々どうなのか、ちょっとその辺わかりませんが、最近の傾向等、実態はどうなのか、お聞きしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

お答えいたします。

支援が必要な園児の数については、右肩上がりと言えるかと思っております。その理由については、特別支援教育、あるいは特別支援学級への理解が進みまして、児童生徒の成長とか発達に、その学級が教育的効果をもたらすということが、保護者のところへ浸透してきたというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

今、増えている傾向だということなんですけども、市は一貫教育を推進しているわけなんですけども、どのような園児であったかということ、これは保育園、幼稚園との連携を十分図る必要があるということ、これは恐らく今までもやっていたんだろうと思うんですけども、青海地域の田沢小学校は同じ敷地内に、たしか幼稚園あるかと思うんですね。極めて連携は取りやすいだろうと。

しかし、そうじゃない地域においては、なかなかそう頻繁に連携するというのは難しいような気もするんですけども、その辺、入学後の情報交換など、しっかりとやっていますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

園から上がります情報については、小学校のほうにまたつなぐようにしておりますし、それから、こども課が行う園への巡視等によりまして、支援が必要な子供たちを見つけたような場合についても情報として上げながら、また、保護者の皆さんからも早期に対応できるように相談を持ちかけるといいますか、お願いしたりしまして、子供にとって適切な指導が行われるように配慮しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

発達支援センターめだか園がございまして、その職員とうちのほうで、専門職員として臨床心理士を臨時職員で雇っております、その職員がペアになって各園を訪問して、子供さんの様子を見ながら、園長と一緒に子供さんの様子を見て、それで、そこに気になるお子さんがいれば、しっかりめだか園につないで、その子が卒園するという状況になれば、しっかり学校と連携を図って対応しているという状況であります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

子供本人はもちろんなんですけども、やはり保護者の何と申しますか指導というのにも必要な場合もたくさんあるだろうなと。そういうのをやはり今後ともしっかりやっていただきたいと思います。

それで、ちょっと話は違うんですけども、児童虐待について、非常に全国的にいろいろな報道がされておりますけども、新潟県内では、2019年において児童相談所の調べでは1,047件、それで県警の調べでは931件との報告がありますけれども、この児童虐待について、私はないんだらうなと思うんですけど、糸魚川市においてはどうなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

おっしゃるとおり新潟県でも、虐待通告の件数は増えてきているという状況であります。糸魚川市も例外ではなくて、虐待通告の件数は、平成28年度で39件、29年度で29件と増えていると。失礼しました。今現在は39件、平成30年度は39件ということで、増えているというような現状であります。

ただ、これは近年、皆さんの虐待に対する意識の高まりもあって、虐待通告の件数は増加傾向にあるということですが、その中でも虐待のおそれがある、当課の家庭児童相談員が継続的に関わっている件数は、平成29年度が48件、30年度が47件というふうに横ばいの状況でございます。糸魚川市の現状としては、父母からの暴言といった子供の心に影響を与える心理的な虐待が多いのが、糸魚川市の特徴であります。

ただ、上越地域では、ネグレクトといった育児放棄などが多いのが傾向になっています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

今、数字を聞いて非常にびっくりしたんですけど、結構あるもんだなと思いました。これは先日の東京都のある事件をきっかけに、しつけと体罰の区別ということで、厚生労働省の有識者会議で指針が新聞に載ってたんですけども、いたずらをしたので長時間を正座させると。あるいは宿題をしなかったので夕飯を与えないなど、これはしつけではなく体罰だというふうな定義をしているんですけども、随分ちょっと考えられないぐらいに、しつけというふうに私とるんですけど、教育長、これ聞いてどんなふうにお考えですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

井川教育長。〔教育長 井川賢一君登壇〕

○教育長（井川賢一君）

お答えいたします。

以前のしつけと体罰の考え方とは、やっぱり明らかに変わってきているということだろうと思います。それで、やはり家庭でのしつけはもちろん大事なんですけども、体罰に至らないような、そういったしっかり保護者への啓発が必要だと思っています。そういった中で、やはり今、こども課のほうでは、妊娠期から乳幼児健診ですとか、保育園も関わってくるわけなんですけども、そういった中で、やはり保護者への現状の考え方とか指導をしっかりしていく必要があるというふうに捉えています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

この間の東京の事件は、本当に余りにも特殊なケースだと思うんですけども、やっぱりここまで、全部が全部、何ていうんですか保護者がこういうふうな形に、何ていうんですか以前と比べて感覚がずれてきたとは思いませんけれども、やっぱりその辺、非常に危惧する点ですけども、どうか教育委員会のほうとしてもこの辺、しっかりと保護者に指導していただきたいと思ひますし、あくまでも私は、これしつけじゃないかなと思ってるんですけども、要は大事な子供を成長させるための1つの教育ということですので、それぞれ考え方が違うかもしれませんが、その辺そういうことのないように指導していただきたいと思ひます。

次に、学力向上について伺います。

いろいろと小中学校の学力向上に対するいろいろな対策をしておりますけども、いま一度、現状とどういった状況であるのか、お聞きしたいと思ひます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

平成31年度の全国学力学習調査につきましては、小中学校とも国語については、全国平均を上回ったわけなんですけども、算数、数学、英語については、若干下回っております。また、振り返り、反省を踏まえまして、指導に向かいたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

新年度から、小学校5・6年生において英語が必須科目となると。これは週何時間行われるのか。そしてまた、英語科目の分だけ時間が増えるのか、その辺の授業時間等々。それから今現在のALTの対応で、人員で対応できるのかどうか等、お聞きしたいと思ひます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

小学校5・6年生については、教科で外国語が行われまして、70時間になります。それから、3・4年生も週1時間増えまして、これ外国語活動で行われておりまして、全体的に実施については増えるという形になっております。ALTは、今、市内6名来て、おいでいただいておりますけれども、より英語の授業を円滑に進めるためには、多くの方からおいでいただければありがたいなというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

今、多くの方から来ていただければありがたいなというふうな言い方なんですけども、増員するとか何かそういう計画ないのかどうかということを知りたいですし、それから70時間と言いましたけども、これ結局、週になると2時間ぐらいになるのかな。ちょっとその辺の点と、それから要するに英語の時間だけ1週間の授業の中で増えるというふうにとっていいんかどうか、もう一度お願いします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

英語の時間が増えまして、減る時間もございますけれども、しかし、トータルとして全体的に時数としては増えるというふうに示されております。

時数としては、増えると、増えます。それから、ALTについては、現在6名でありますけれども、学校をまたいで指導していただいておりますので、その数を減らすという意味で。

○議長（中村 実君）

暫時休憩をいたします。

〈午前10時29分 休憩〉

〈午前10時29分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き会議を再開いたします。

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

どうも失礼しました。ALTの数を増やすようにして、学校のまたがっている数を減らしていくというふうにするとよいというふうな意味で申し上げました。大変失礼いたしました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

授業の内容、我々のかつての記憶だと、文法から始まったりなんだりしているんですけども、英会話とかどういった授業内容なんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

授業の内容については、読む、それから書く、それから聞く、話すというような形で行われまして、英語になれ親しんでいくというような学習を進めていくということでございます。主にコミュニケーションを大事にしながら、英語の学習を進めていくということでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

つくづく先生、大変だなと思うんですけども。

ちょっと中学校のほうに移りますけれども、聞くところによりますと、直江津の中高一貫校では、中学校1年生の段階で、既に2年生の数学を習うと。先ほど学力の検査結果のお話がありましたけれども、算数あるいは数学が非常に平均点より悪いというような言い方だったかと思うんですけども、それを考えますと当市の中学校においても、数学あるいは英語の習熟度別授業というものを考える必要があるんじゃないかなというふうに思うんですけども、それについてどのようにお考えですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

確かに習熟度別というのも1つの方法かと思っておりますけれども、現在は、市内には英語の専門官1名を置きまして、授業の改善について努めております。様々な子が助け合いながら、あるいは学び合いながら、力を高めていくというような方向で、今進めております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

今、英語だけしか話しなかったんですけども、答弁があったんですけども、例えば数学、数学についても今申し上げたように、1年生の段階でもう既に2年生の授業をやっているという近隣の中高一貫があると。やっぱり今後の高校受験やその後の進路等々を考えたときに、現状のスタイルで満足できない生徒や保護者がいるかもしれません。学力向上を考えたときに、やっぱり習熟度別クラスに分けることによって、先生も授業がやりやすいでしょうし、子供たちも、特にどんどん、どんどん進みたいという生徒もいれば、しっかりと勉強したいという生徒もいるでしょうし、その辺

のところをやはり考える必要があるんじゃないか。で、他の公立中学校で、中高一貫校じゃないですよ、他の自治体の中学校で、習熟度別でやってるところってあるような気がするんですけど、その辺いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

調査はしておりませんが、他校におきまして、ほかのところにおきまして、習熟度別で行っているところもあるかと思っております。

しかしながら、現在、場合によっては市内でも習熟度、進路に応じながらやってくことも可能とございますか、あるとは思いますが、それから、それも含めて個別にやっぱり指導をしていく、子の進路について確認しながら、必要な手だてを講じていくというようなことによって、一定の内容について、学習指導要領の示す内容についてきちっと習熟させていきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

個々対応はそういう形で、今、後のほうで言われた部分はそうだと思うんですけども、やっぱり何ですかねえ、保護者の同意も必要かもしれませんが、やっぱりこういう時代ですので、やっぱり検討する必要があるんじゃないかと。私はどちらかというと小学校5・6年生からやってもいいかなと思うんですけども、やっぱり規模が違って、なかなか先生の対応が、これは非常に難しいだろうなど。また、教科担任制も採ってもいいんじゃないかなとも思うんですけども、その辺、今後の学力向上の施策として検討していただきたいというふうに思います。小学校から優秀な児童、それから中学校行ってから伸びる生徒、それから高校へ行ってからまた伸びる生徒、逆もあると思います。やっぱりきっかけによって子供たち、生徒がやっぱり変わるだけに、そしてまた先生も、少しでも授業のやりやすい方向性ということを考えたときに、私は必要なことじゃないかなというふうに思いますので、これは提案として伝えておきます。

次、プログラミングの教育についてお聞きしたいと思います。前回、再質問できなかったもので、これについて、いま一度お聞きしたいと思います。

プログラミング教育の狙いの中に、プログラミング的思考を育むとありますが、このプログラミング的思考とは、一体どういう意味なのか、一般市民の皆さんはやっぱりちょっとわかりづらいと思うんですよね。これを詳しく説明をいただきたいんですけど、よろしく願います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

プログラミング教育の手引というのが出されているわけですが、そこにはやはり、そのま

ま申し上げますけど、難しいなどは思っております。自分が意図する一連の活動を実現するために、どのような動きの組み合わせが必要であり、一つ一つの動きに対応した記号を、どのように組み合わせたらいいのか、記号の組み合わせをどう改善していけば、より意図した活動に近づくのか、ということを論理的に考えていくんだというふうに示されるんですね。少し置き換えて、簡単に言ってみると、自分の意図を実現させていくために、プログラミングの方法というのを使って、論理的に考えていくというふうに解釈するということです。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

余りよくわからない。パソコン使って、今のようなことをどうやってやっていくのか、具体的に算数だったらこういうふうにやっていくんですよとかって、たしかあったと思うんですよ。その辺の説明、もしあれば。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

5年生の算数の中で多角形の勉強がありますけれども、コンピューター上で動かしながら線を引くというような活動がありまして、ある1点から、どちらの方向にどれぐらいの角度で向かっていけばよいかというようなことを指示するわけです。それによって、例えば正三角形だったり、四角形だとかということを描くような仕組みがあります。これを小学校では、今のところカードとかブロックとか、これを組み合わせながら命令して行って、子供たちが楽しみながら多角形を描いていくということが例示されております。いわゆるコンピューターで難しい言語を使って命令を出していくというのはちょっと違っていて、ブロックとかカード、既にあるものをこうやって組み合わせていながら、正三角形とか四角形とかを描かせるというような活動が、1つ例示されております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

やっぱり同席しないとわからないですね。ちょっとよくわからないんで。

小学校の場合、これはプログラミング教育が実施される教科、これは一体どういったものなのか。それから中学校は令和3年度からというふうに聞きますけれども、これは何なのかお聞きしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

小学校では、算数とか理科で、その例示が行われております。

中学校では、技術家庭科の技術分野で、今もプログラミングの学習についてはありますけれども、さらに内容が深まって、実施されていくということになります。中学校では、現在、デジタル作品の制作とか、プログラムによる計測なんていうのがあるんですけども、それらから発展して、問題の解決をプログラミングの授業の中で図っていくというふうに示されております。中学校については、令和2年度に教科書の採択が行われまして、より教科書の中で詳しく示されていくというふうに私のほうでは解釈しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

今、中学校の場合、技術家庭科だけしか出なかったんですけど、これは例えば数学とか、先ほどの小学校のようにほかの教科においてはどうなんですか。それから、全学年でやるのかどうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

まず、小学校のほうのプログラミング学習なんですけども、大きく6つのものに分けられております。学習指導要領に例示されているようなもの、それから、学習指導要領に例示はないんだけど、教科の内容を指す中で実施が可能であろうと思うようなもの、それから教育課程の中で、各教科とは別に実施するようなものというようなことがあったり、最後、クラブ活動等も含めて行われていくということになっております。

また、今回、小学校で採択されました算数の教科書の一番後ろのほうには、コンピューターは用いないんだけど、プログラミング的思考を育むような問題等についても例示されております。

中学校については、今のところを基にしますと、プログラミング的思考については、育むような、そもそもそういう教科はなく、技術の中で行われていくわけですので、小学校も中学校も、中学校は技術家庭科の中の1つの分野としてありますけども、小学校も中学校も新たにプログラミングという授業ができるわけではないので、教科ができるわけではないので、そのところは、中学校ではやっぱりプログラミングの技術家庭科の中で行われていくものというふうに解釈しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

そうすると、小学校では算数や理科をやって、今現在お聞きしますと、今度、中学校へ行くと技術家庭が主なものであるというふうにとってよろしいわけですね。

これ実施するに当たり、要するに指導体制なんですけども、例えば各学年の教科において専用のソフトを活用して行われるものと思うんですけども、IT関係者とどのような授業になるのか、現場の教師の対応についてはどういう形になるのか、お伺いしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

教科の中でソフトを使いながら指導するということがありますので、教員にとっても初めての部分のところがあると思います。市のほうで2名のICT支援員を配置していただいておりますけれども、相談しながら、あるいはその扱いについて照会を得ながら、学んで指導していくという形になると思います。

このたび県のほうから指定を受けて、1月だったと思いますけども、指導者が来て、算数の、先ほど申し上げました多角形の授業について、全員ではございませんけども、各学校から授業の参観をしていただくような研修についても進めております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

小学校プログラミング教育の手引では、必要な指導内容を教科横断的に行い、計画的・組織的に取り組み、その実施内容を評価し、改善を図りながら育てたい力や指導内容を見直すことが重要であるというふうに記されておりますけれども、この点、しっかり進めない限り、各学校や教育委員会の指導によっては、格差が生じてくるだろうと。それだけにICT支援員との十分な連携を図る必要があるというふうに思います。

各学校の自由裁量でプログラミング教育の授業時間を自由に増減できるのかどうか。例えば課外活動、クラブ活動、児童の興味や関心などのレベルに応じて、多様な学習機会を学校側で自由に設けるというふうにとってよろしいのでしょうか。確認したいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

先ほど少し申し上げたんですけども、新たにプログラミングという教科等が増えるわけではございませんので、その教科の中で学習指導要領に例示されている内容については、プログラミングを通して正多角形の意味等について学んでいくと。教科内容があって、そこにプログラミングの教育を入れていくというふうに考えていいと思います。それについては、必要な時間等、また確保しながら教科の内容を習得していったらいいと思います。

それから、学習指導要領に示される各教科の内容を指導する中で、ほかに例えばリズムパターンの組み合わせ等の音楽みたいなのも想像できるわけですけども、それは学習指導要領には例示されていないけれども、実施してということになると思います。これについても例えば音楽だったらその内容とかを習得する上で使用していくということになると思います。そういう力を教員がどうつけていくか。やっぱり日常的に研修に出たり、あるいはICT支援員の巡回によって、疑問なところを解決していったりしながら、子供に指導できるように力をつけていく必要があると考えており

ます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

もう一度確認しますけども、クラブ活動とか、これやりたいんだと。勉強から離れて、関心のある子供たちがいたということで、自由にその辺のところをやらうと思えばできるというふうにとってよろしいんですかということを知っています。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

学校で行われますクラブ活動については、子供の意欲とか思考によりまして、ニーズ等にも応じますけれども編成されていきます。それによって、さらにコンピューターに触れ、プログラミングについて学んでいくということについては可能でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

じゃあそういった場合の、いわゆるICT支援員に対する、当然、必要となるだろうということもあるんですけども、そういったところの予算措置、これは授業を離れた場合の課外活動とか何とかの場合の予算措置というのは、これどうなるんですか、市が負担するんですか、それとも国のほうでもって、いい事業だということで認められるんですか、その辺どうなんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

2018年から2020年までの地方財源措置を講じるように手が打たれているわけなんですけども、その中にICT支援員も対象として入っているということでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

休憩お願いいたします。

○議長（中村 実君）

暫時休憩します。

〈午前10時50分 休憩〉

〈午前10時51分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き会議を再開いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

様々なクラブ活動がございますけども、そこでは学校で編成し、活動いたします。議員ご質問のプログラミング関係のクラブ活動につきましても、学校の職員がリードしながら、ICT支援員が、そこでまた一緒に指導するということが可能でございます。

予算は、市のほうから計算して出させていただくということでございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

井川教育長。〔教育長 井川賢一君登壇〕

○教育長（井川賢一君）

お答えいたします。

先ほど泉課長が、2018年から2022年度までの地方財政措置というお話をしました。その中に、市のほうにも交付されておりますけども、その中でICT支援員を現在2人雇用させていただいているというものでございます。もう少し先の話としますと、今、国のほうでは、大体4校に1校程度ICT支援員を配置するようというのでございますので、それに向けて、今、支援員の確保といいますか、なかなか人材確保が難しい面がございますので、そちらに向けて増員の対応をしていきたいというふうに考えています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

わかりました。興味や関心を示す児童の場合はいいんですけども、パソコンが好きでない児童がいる場合、新たに教師に負担が生じると思うんですけども、教師にとっても非常にストレスがたまると。そういった場合の教職員の業務改善等々についての、十分検討しているかどうか、お聞きします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

お答えします。

教員のほうにつきましても、新たな内容ということで議員ご心配いただいているように、不慣れな状態がある場合もあると思うんです。毎日というわけではないし、定期的というわけにもいかないと思いますけども、その研修、あるいは教育委員会としてのバックアップについてもしていかなければならないというふうに考えておりますし、先ほど来、答弁、ご質問のほうにも出ておりますICT支援員のほうについても協力、協力といえますか教員のほうの求めに応じて、解決を図っていきけるようにしていかなければならないというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

ICT支援員は、ICTそのものについては詳しいと思うんです。

ところが、プログラミング教育について、教育的な意義を理解してるかどうかというと、少し疑問に思うところがあるので、危惧される点はないか。危惧されたとした場合の対応策はどうか、お聞きします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

ありがとうございます。確かにICT支援員は、支援員でありますので、授業単独でどんどん進めていくとか勝手にやっていくということではできません。先ほど申し上げました学習内容がありまして、それによってどのようにプログラミング的思考を育てていくかということが大事だと思っております。担任あるいは指導者としての教員が、どのように進めていくか。そのことについて、専門的な見地からのアドバイスをもらいながら授業をきちっと行っていかなければならないと思っております。その点についても、また注意していきたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

最後に、小規模校における複式学級の場合、プログラミング教育において課題や問題点はないか。特に複式授業のため、先生の負担はもちろん、授業が円滑に進むかどうかなど、やはり危惧される点もあると思います。その場合の対応について伺いたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

確かに新しいことですので、複式のような学級については、また、不都合が生じる場合があるかとも考えております。複式校におきましては、いわゆる複式で授業を行う場合、それから同じ内容、2学年の内容を一緒にして、隔年で進める場合がございます。教科に応じるわけですが

ども、そのあたりをまた注意をしなきゃいけないということと、それから今、複式校においては、A I 型の問題を出すような仕組みといますかソフトを入れておりますので、こちらでプログラミング学習でコンピューターを使っているときには、こちらで少しコンピューターを使ったドリルをしてもらうなどの工夫も考えられております。始まってみての問題点も、議員ご心配いただいているようにあると思うので、その辺りをまた一つ一つ出た段階で解決したいと思ひますし、予想できる問題につきましては、事前に解決しながら新たな教育に向かひていきたいというふうにかえております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

井川教育長。〔教育長 井川賢一君登壇〕

○教育長（井川賢一君）

お答えいたします。

補足してになりますが、国おける今、G I G A スクール構想ということで、端末が1人、小中学生に1人1台が配付される形になります。これは令和5年度までということになりますけども、そういった段階においては、今ほど松尾議員がおっしゃったところよりも少し先に進むのではないか。それは例えば遠隔授業の活用とか、複式校同士をつないで、例えば5 G が導入されれば、現状より通信速度が20倍程度になりますので、そういったことでリアルタイムで1人の教員が複数校を持つとか、そういったことも考えられるようになるというふうにかえています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

わかりました。ありがとうございます。非常に教職員も様々な改革の中で、いじめの問題とかいろいろストレスたまると思うんですよね。ちょっと先生のほうの勤務実態や状況について、ちょっとお聞きしたいんですけども、全国的に教育現場が元気がなくなっているのではないかというふうに言われています。以前と比較して、教師が疲れているのではないかということも感じるわけですけど、教育長、その辺はどのように捉えていますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

井川教育長。〔教育長 井川賢一君登壇〕

○教育長（井川賢一君）

お答えいたします。

以前と比べてというご質問でありますけども、私の感想としては、やはり現場は大変多忙で、疲れが出てきているんだろうというふうに思っています。教育委員会としては、学校を指導するという立場もありますけども、やっぱり学校を守るという立場もござひます。そういった中で、しっかり働き方改革を進めていかなければならないというふうに、私は思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

これも新聞に載ってた記事のことなんですけども、新潟県が教職員のなり手が非常に減少してきていると。都道府県の中で最下位で、倍率が1.2倍だと。これだけの状況になった。まさに今、教育長の話のとおりなんだろうと思うんですけども、その辺、教育長としてどのように捉えていますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

井川教育長。〔教育長 井川賢一君登壇〕

○教育長（井川賢一君）

お答えいたします。

昨年度の倍率が1.2倍だというふうに承知していて、今年度はもう少し改善したと、今手元にちょっと持ってないんですが、それにしても以前と比べてやはり倍率が低くなっているということでございます。これは学校現場に、教員になりたがらない人がいるという事例もあるのかもしれませんが、社会全体としていろんな職種についてもやっぱり人手不足というのが出ているので、教員に限らず社会全体での課題だというふうに私は捉えています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

先生は非常にやりがいのある仕事だというふうに思ってるんですけども、仕事の、いわゆる勤務実態を聞きますと、時間外手当の制度がなく、残業時間を記録する仕組みもないと。教師の仕事量を把握するのは、非常に極めて難しいと言われておりますけども、市内小中学校の場合、何時間ぐらいでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

昨年、30年度においては、60時間越えの調査を続けてまいりました。市の平均は、約20%ほどになっております。市内平均20%越え程度になっております。

糸魚川市では、昨年度は、6月、11月において月60時間越えの超過勤務の割合、超過勤務する人が多かったということになっております。今年度は、5月が少し上回っているんですけども、その他の月は昨年度と同様か、やや割合が低くなっているということになっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

1日当たり時間どのぐらいかというふうに言ってもらえればわかりやすいですよ。どのぐらいですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

職員によって異なりますけれども、あるいは学校によっても異なるんですが、職員二、三時間のオーバーというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

勤務時間が、じゃあどのぐらいかというのを確認したかっただけなんで、じゃあ10時間ぐらいやってるわけですね。あるいはもっとそれ以上なのかな、10時間ぐらいか、ですね。それで、非常に最近はパソコンでいろんな提出物をやらざるを得ないとか、非常に多岐にわたってるんですけども、結局そういうのがやっぱりストレスになるということを知ってますけども、実際に、例えば不登校やいじめ、それから児童生徒の問題や、それから保護者、家庭の問題等々、全て抱え込んで非常にストレスがたまってくる。現在、休職中の職員、教職員いますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

市内では1名おられます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

結局、それは精神的なストレスなのか、体調を崩してのことなのか、その辺、詳細は無理にしても、どういった理由でこうなったということを知らせていただければと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

議員、今おっしゃっていただきましたように個人の内容に触れることでございますけれども、心のほうのストレスというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

結局、真面目で一生懸命やればやるほど、責任感が強ければ強いほど、具合が悪くなるケースというのはあると思うんですね。そういった先生をケアしていく意味で、例えば職員間同士の関わりというのが薄くなってるんじゃないかと。その辺について、あるいは管理職がいろんなアドバイスなり、いわゆる職場環境ということになるんでしょうけども、その辺のことについての原因というのはなかったですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

様々な内容につきまして、事案等につきましては、学校で1人の担当とか、担任が背負わないように気をつけているところがございます。校長を中心に組織的に対応していく、あるいは相談を受けるといようなことについて努めているところがございますが、一人一人の要求に、あるいは求めに応じられない場合もございますので、その辺また十分気をつけなきゃいけないなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

精神的に体調を崩した先生のケアについて、例えば休職した、休んでる教員が職場復帰したと。そういった場合の対応、いわゆる相談窓口とか何かを設置してるのかどうか。それから、休職した後の、職場復帰しても再休職する場合もあるということもあるらしいんですが、当市の場合は、今まで早期退職者というのは、何人かやっぱり過去にあったもんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

定年を待たずにして退職される教職員については、市内でもおられます。その要因については、家庭の事情とか、本人事情というのがございますので、詳しく分析等はできないし、それについてここで、今分析していないので申し上げられないわけですけども、事案として例示するようなことについてはできないというふうに考えております。

先ほど議員おっしゃったように復職後、またお休みになる方も県内あるいは全国にはいらっしゃいますので、復職に当たっては、十分注意して、試しの出勤等をしたりを重ね、頻度を上げていくようなことについて、あるいは復職する際の不安等について聞きながら、確実に出勤できるようにまた、努めているところであります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

いじめの内容等々について、ちょっとお聞きしたかったですけど、今のようなお話を聞きますと、教育委員会と、今度、学校との関係というのをちょっとお聞きしたいんですけども、教育委員会の関与が必要以上に強過ぎて、学校の主体的活動を制約してるようなことはないか。あるいは教育委員会からの無理な指導がなかったかどうか、こういうふうに聞きますと、いやありませんということになるのかもしれませんが、今までどうであったか、ちょっと確認の意味でお聞きしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

教育委員会については、教育の大枠といいますか方針についてきちっと示し、指導していく立場にございますので、そのような指導をしてみたいんですけども、校長が学校の経営とか、それからグランドデザインを作成するようなことであって、あるいは日々の学校の運営に当たって創意工夫をしながら教育を行えるように教育委員会では努めております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

思うような答弁が、ちょっと返ってこないんですけども、学校長は、教育現場を十分把握していると思うんです。各教職員のそれぞれのいろいろな業績評価というかそういったものについて、教育委員会等々に報告しているんだろうなというふうに思うんですけども、逆に教職員のほうから管理職に対する様々なそういった意見を聞くような、いわゆる開かれたそういった関係というのは、つくっているのかどうか、その辺ちょっとお聞きしたいです。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

各学校では、職員から意見を聴取するような場、面談等を設けて、職員自己評価の後、校長と面談するような、あるいは管理職、教頭も含めて面談するような場を設けております。日常的にも困ったことがあれば、管理職だからといって聞かないとかというよりも、むしろ管理職はそういう声に耳を傾けて、学校の改善、あるいは個人の負担の理解について進めているというふうに解釈しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

学校長についてお聞きしたいと思いますけども、学校長が学校を運営していく上で、自らの教育理念や教育方針に基づいて、自主的・自律的な学校運営が行える状況を教育委員会としてつくっているかどうか。それから、学校の意向が反映され、校長の裁量によって教育事業が推進できる予算措置を行っているかどうか、積極的に要望されているかどうか。それから、教職員人事において、非常勤講師の採用では、校長に人選させるなり複数の候補者から選ぶことができるなど、校長への配慮やそういったものがあるかどうか、この3点お聞きしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

各校においては、その地域性等を生かしながら、コミュニティスクール等でまた、学校運営協議会等でのご意見をいただいたりして、学校の自立性を保つようにしておりますし、また、地域との連携も図るようにしております。学校の予算の編成や人事については、校長のほうから意見を、学校から要望を受けますけれども、これについては教育委員会のほうでさせていただいているという形になります。学校からの要望については十分聴取しながら、しかし、教育委員会がすべきこともございますので、教育委員会がきちっと行っていくことはするし、学校のほうの自立性を保って、学校がすることは自立性の中で行っていただいております。

非常勤講師については、県のほうの配置のルールに基づきまして、配置をさせていただいております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

ちょっと私の質問が悪かったせいか、答弁があれです。少し話変わりますけども、不登校のことについてちょっとお聞きします。

先日の教育委員会の定例会で出た資料を見ますと、不登校及び不登校ぎみの人数、これもう一度確認の意味で、現状どうなのかお聞きしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

不登校の、今年度の不登校児童生徒数については、1月末の人数になりますけれども、小中学校を合わせて合計22名ということになります。昨年度と比べて3人増えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

実は気になるのが、不登校ぎみの生徒、これ中学校どのくらいいますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

対応別の不登校及び不登校傾向の児童生徒の状況として、教育委員会で報告しております延べ数でございますが、中学校では61という数で出しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

非常に61人と多くなってるんですけども、このいわゆる登校を促すためにどのような対応をするか、要するに生徒本人だけの問題ではなくて、保護者の問題が絡んできたりなんかする場合がありますと思うんです。こういった場合の登校を促すためにどのような対応をしているか、お聞きします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

1つには、不登校及び不登校傾向の児童生徒と、その保護費に対しては、適応指導教室の案内をしております。学級復帰に向けた活動に取り組むように勧めております。

また、こども教育課の生徒指導支援員や市の相談員、学習支援員も定期的に学校を訪問しながら、その相談に応じたり、あるいは教職員が定期的な訪問を促したりするというような形をとっております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

そうなんでしょうけども、例えば担任1人でやってるのか、あるいはチームワークがしっかりできて、こういう何ていうか学校全体で取り組むということも、そのときによってはあるんじゃないかなというように思うんですけども、その辺のもっと詳細な説明をいただけませんか。どういうときにはこうだとか。保護者もやっぱりいろんな事情で、対応がやっぱり違ってくると思うんですよ。そういったことについて具体例として、こういうときにはこういうふうにやってるということを知りたかった。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

泉こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 泉 豊君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（泉 豊君）

議員、先ほどおっしゃっていただきましたように家庭の問題、あるいは友達関係の問題、いろいろと要因がございます。それに応じて、上がってきた情報をもとに校内での組織を組みますし、また、関係機関とも連絡を取って、家庭とも連絡を取りながら不登校にならないように、あるいは学校への復帰に向けて指導したり、連携を取ったりして、子供の指導に当たってるということがございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

私、聞きたいのは、例えば不登校の問題で、保護者が自分の子育てを批判されたくないとか、あるいはうまくできていないというふうに思われたくない、そういった保護者、こういう場合は過剰に反応すると思うんですよ。そういった場合の対応はどうか、お聞きしたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

磯野こども課長。〔教育委員会こども課長 磯野 豊君登壇〕

○教育委員会こども課長（磯野 豊君）

家庭にいろんな事情があるお子さんがいらっしゃいます。そういったときは、学校で対応が非常に苦慮していれば、こども課に家庭児童相談員がおりますので、そういったところとペアになって家庭訪問をしたり、親御さんとお話しさせていただいたりして、もちろん子供さんとも面談をさせていただきますが、そういった、なお、また家庭児童相談員が、学校に出向いて、お子さんの気持ち、保護者の気持ちを酌み取るといったところで対応させていただいてる事例もございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

そうやって具体的な話を聞かせていただければ、わかりやすいんですけども、時間がありませんので、2番目の項目についてちょっとお聞きします。

先ほど答弁をいただきましたけれども、子供たちが非常にいい成績を収めてるんだけど、非常にクラブの数が減ってきてると。この教育委員会の資料では、非常に子供たち、中学生、活発にスポーツクラブやってるなというふうに数字上は見れるんですけども、今後、果たして今現在の体育協会の形でいいのかどうかというのが、やっぱりちょっと疑問に思います。

1つは、例えば公民館事業で、福祉施策として健康増進とかやってる事業がありますけども、これは福祉課のほうになるだろう、あるいは健康増進課になるんでしょうけども。こういったものもろもろやれるシステム、総合型スポーツクラブということと言われる方もおられるんですけども、これについて教育委員会としては、どのように考えていますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

小島生涯学習課長。〔教育委員会生涯学習課長 小島治夫君登壇〕

○教育委員会生涯学習課長（小島治夫君）

お答えさせていただきます。

総合型地域スポーツクラブにつきましては、年齢が子供から大人までと多岐にわたったものでありまして、いわゆる健康増進から子育て、それから学校等の連携等も事業の中にはありますので、将来的には糸魚川市も総合型地域スポーツクラブをつくるように、今、昨年から勉強会を始めたところでありまして、理解を深める形でそのような対応をとっていきたいと、今現在ではそういう考えでおります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

松尾議員。

○18番（松尾徹郎君）

子供たちが一生懸命、例えば私はバスケットをたまに見に行くんですけども、非常に学校では教えてもらえないような社会性とか、そしてまた忍耐力とか、非常に今いじめの問題がいろいろありますけれども、ほんのささいなことで、そんなのいじめじゃないなと我々の年齢からすると思うことが、いじめとして上げられると。そういったもろもろのことを考えたときに、やはり非常に学校外でのスポーツのいろんな経験が、子供たちにとって非常にいい影響を与えてるというふうに思います。それをもっともっと充実させるためには、やっぱり予算もありますけれども、今のような組織をつくって、指導体制もきちとした形でやることによって、一般の市民が非常に苦勞して、土日、自分の休みを返上して練習を教える。こういうことを考えますと、もっと充実した組織をつくって、そういった動きをすることによって、私は随分、子供たちの教育面においてもかなり違って来るだろうなというふうに思いますし、そういう面で、今後、前向きに検討していただきたいということをお願いして、一般質問を終わります。どうもありがとうございました。

○議長（中村 実君）

以上で、松尾議員の質問が終わりました。

35分まで暫時休憩いたします。

〈午前11時23分 休憩〉

〈午前11時35分 開議〉

○議長（中村 実君）

休憩を解き会議を再開いたします。

次に、東野恭行議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（中村 実君）

東野議員。〔2番 東野恭行君登壇〕

○2番（東野恭行君）

おはようございます。清政クラブの東野です。